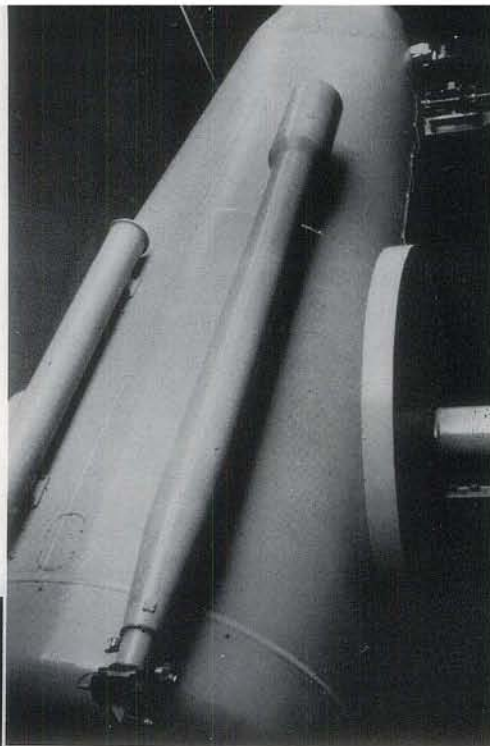


## 世界のシュミット望遠鏡を訪ねて

パロマー 48 インチ・シュミット望遠鏡々筒。2本の副筒は長い方が案内望遠鏡、短い方は平衡錘の筒。

▼ パロマー 48 インチ・シュミットの乾板ホルダー着脱窓。中央に見える山形の部分にホルダーをとりつけ扉をしめてスイッチを押すと、ホルダーが上部の焦点部へ昇っていく、その際引きぶたは後へ残される。

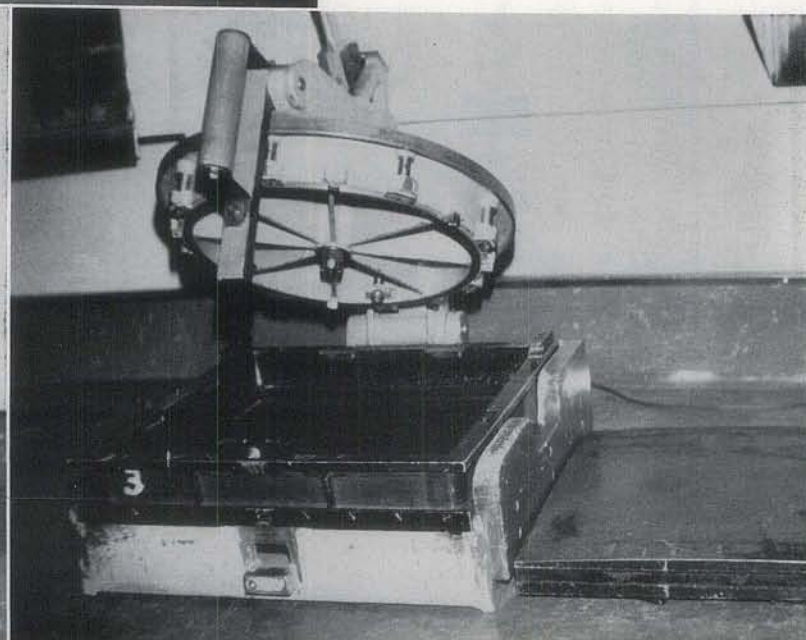
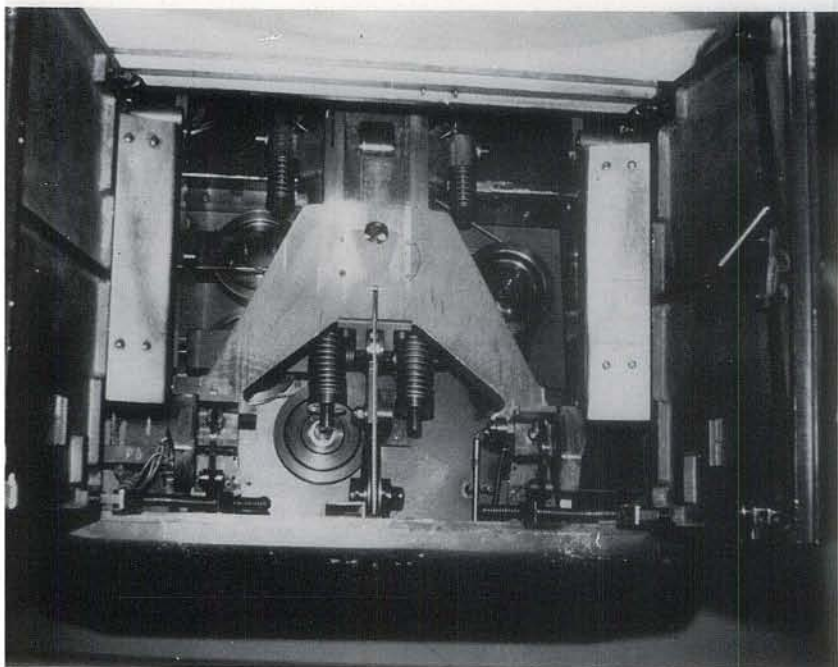


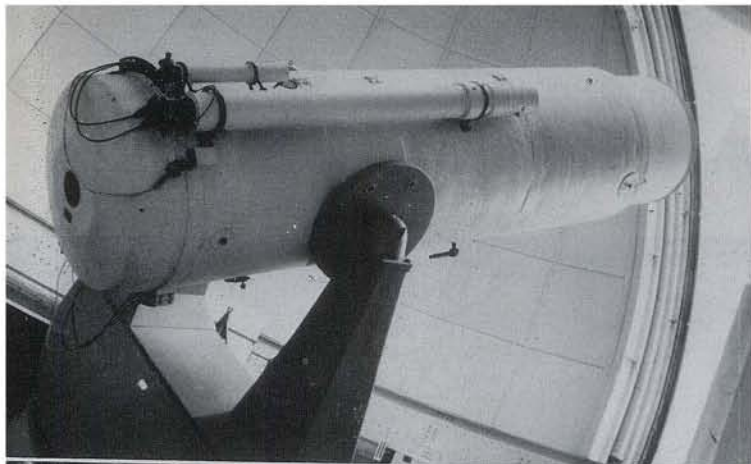
(右ページ上段) ハンブルク天文台 80 cm シュミット望遠鏡。鏡筒にしわがよっているのは、キャンパスで巻いてあるため。

(右ページ中段左) 80 cm シュミット・ドームの脇にある B. シュミットの墓。

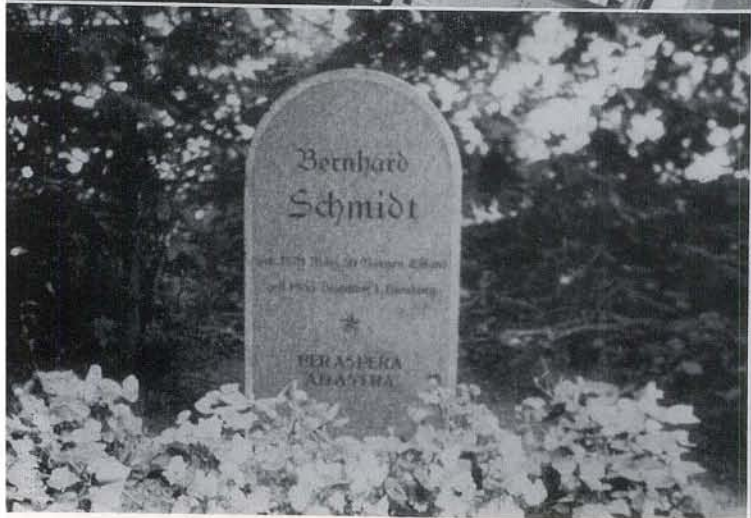
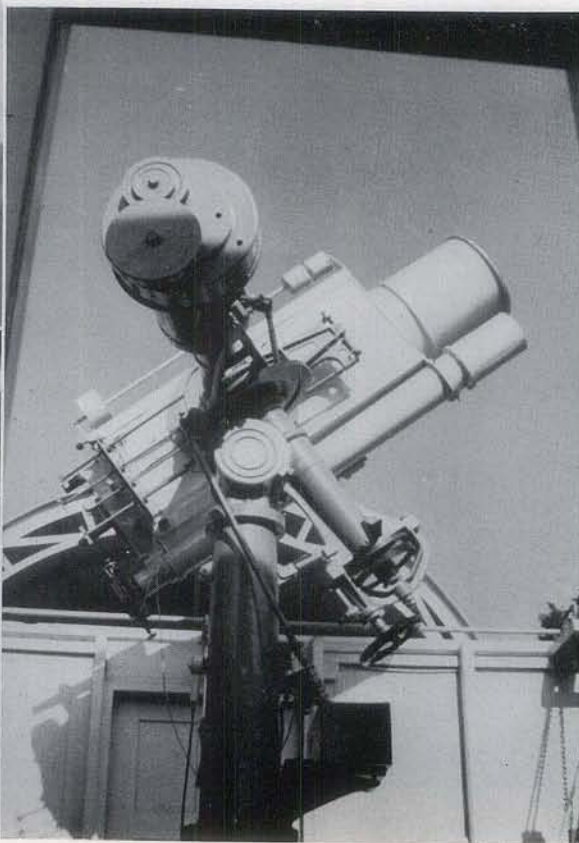
(下段左) パロマー 48 インチ、乾板曲げテスト器に乾板をおいたところ。上のハンドルで曲面を乾板に押しつける。

(下段右) おなじく乾板ホルダー。3の数字のあるのがホルダー枠で、これに乾板を入れ(膜面下)、右においてある裏ぶたを(曲面を下に)はめて、上のプレッサーをハンドルで押しつける。





▼ B. シュミットが作ったシュミット望遠鏡第1号機



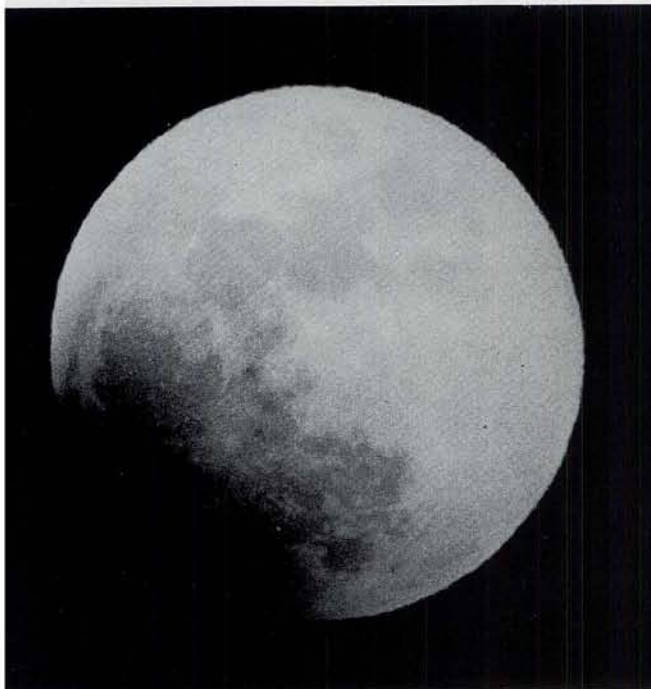
▼ ハンブルク天文台 80 cm シュミットの鏡筒内へ入って主鏡側を見たところ。主鏡の花卉式カバーや、焦点部へ乾板ホルダーの取付いているのがうつっている。ハンドランプをかざしてくれているのはリュベックさん。



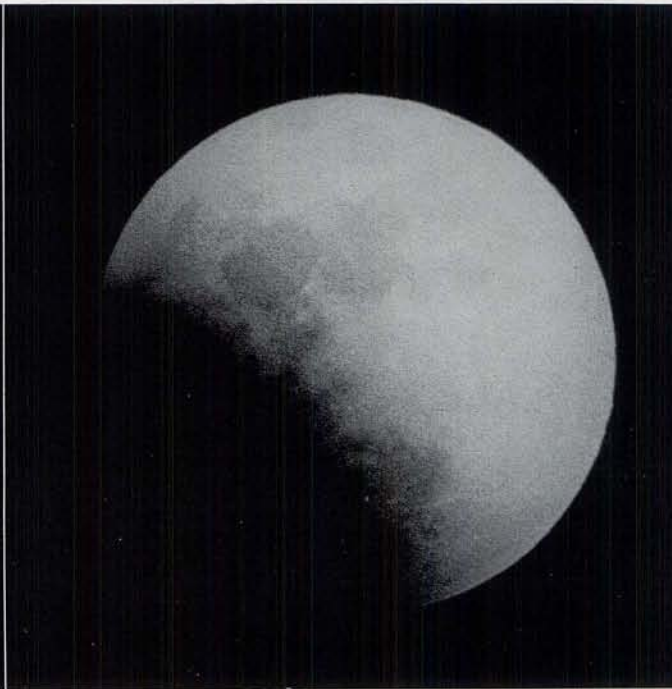


# 1972年1月30日の月食

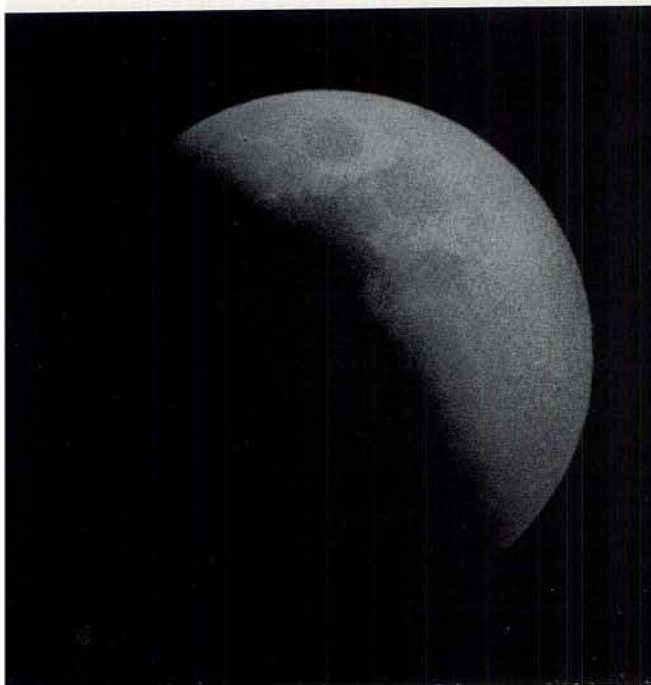
ニコン 8cm 屈折望遠鏡 (F/15) の直接焦点により皆既前の月を撮影，左上の方向が北の方向，撮影時刻（中央標準時）及び露出時間を下に記す。



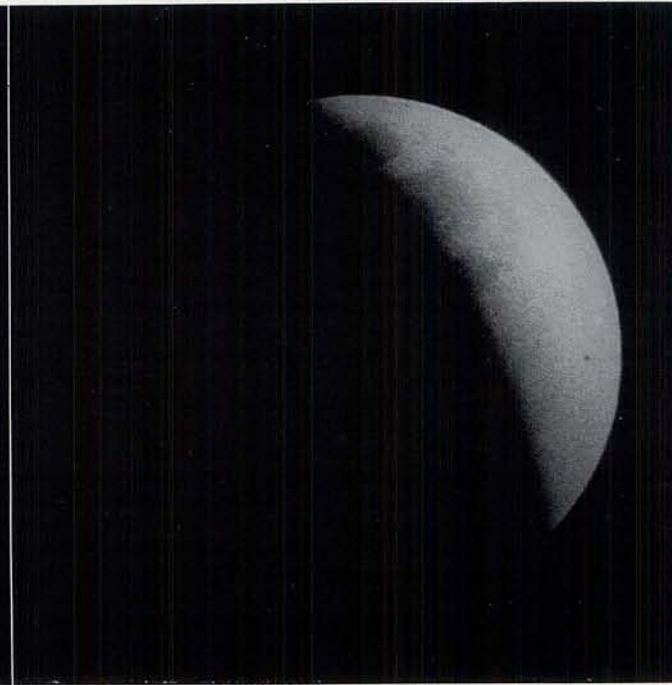
▲ 18時15分，1/60秒



▲ 18時30分，1/30<sup>1</sup>秒



▲ 18時50分，1/15秒



▲ 19時06分，1/4秒